

4. 本時案

【本時のねらい】 友達の選んだオススメの本を見て考えたことをいかして、自分の本の紹介文を書こう

予想される本時の展開

本時の授業設計
ミュージアムってどん
なところ？
 おさかな（今回は淡水魚を含め水辺の生き物もあり）に関して、さまざまな展示や解説があるところ、鑑賞して楽しめる場所であろう。それを子ども達が既存の施設と財産を使って表現している場が今回のミュージアム。その最後の一手間が本時の活動である。
見合っ、気づく
 3年生は自分の近くの子にしか目がいかない傾向にある。クラス全体を俯瞰することで何が見えてくるのか。子ども達の発見に期待。
本が読みたくなる紹介文を書く
 自分が選んだからには理由がある（精査）。その理由は、他の人にとっては、驚きかもしれない。定型文では表現しきれない伝え方で、その本を読みたくさせる、そんな文章を生み出そうとしてほしい。認めること、書き方を教えることは、担任と司書とである。授業中の子どもに関する情報共有はいつも通りにおこなう。

| 主な活動（■）と 子どもの意識（・） | 担任の手だて（●） 司書の手だて（○） | 活動を支える教師の視点 （▼）と評価（★） |
|---|--|---|
| ■ミュージアムってどんなところだったかな？（5分） ・作品が飾ってある ・展示してある・説明がある ・面白そうな所 | ●八景島シーパラダイスのアクアミュージアムから連想させる。 ●前回の活動を思い出し、本時の活動に意識を向ける。 | ▼メディアルームが少しずつこのクラスのミュージアムになっていることに気づかせる。 ★活動にワクワク感を持って取り組んでいるか。 |
| ■特集本棚をつくって、見てみよう（15分） ・いろんな本が並んでいるね ・その本は自分も読んだことがあるよ ・同じ作者の別の本を読んだことがあるよ ・低学年の読書ノートを見たから絵本ばかりかと思ったけど、そうでもないね ・おたずねします。その本のどこに海の生きものが出てくるの？ ・よく見つけたね ・3・3らしい本棚ができたね | ●特集本棚の好きな位置に並べさせ、本棚全体を眺めさせる。気づいたことや質問から、並んだ本の特徴に気づかせる。子どもからでなければ15や21の本を取り上げ、発言を促す。 ○意外なところに目を付けた発言に対して、担任とともに認めていく。必要ならば、上手な本棚づくりについて触れる。 ●色々な視点がいかされて、バラエティに富む本が並んでいることを認める。 | ▼今回の活動は、自分たちのテーマに合わせて、メディアルームという場を自分たちの手でレイアウトしている。テーマを設定し本を集めて並べることは、学校司書がいつも行っていることだと子ども達は気づくはずである。自分たちの環境を整えてくれている存在に感謝するとともに、司書という仕事に関心をもったり、本の扱い方に気をつけたりする機会になるだろう。 ★自分の関心や疑問をもとに発言し、問われた場合にその意を汲んで、答えようとしているか。 |
| ■手に取った人が読みたくなるよな、本の紹介文を書こう（25分） ・何を書いたらいいかな ・ミッケみたいな書き方でもいいかな ・クイズを出してみよう ・みんなどんな文を書いたの | ●本の大きさがいろいろあるが、クラスの活動としての統一感を持たせるために、紹介文を書くカードは共通とする。 ●○低学年が読むことも配慮させ、わかりやすい文章を丁寧な文字で書くように声をかける。 | ▼友だちの精査の結果を見て、その着眼点の面白さや良さに気づいている子ども達である。紹介文を書くという活用でそれらをいかせるように支えていきたい。 ★手に取った人が読みたくなるような紹介文を書こうとしているか。 |

注目させたい児童（番号は出席番号）

15 (男) レオ・レオニが大好き。選んだ本も図工の作品も「スイミー」である。俳句もレオ・レオニ絵本の棚のすぐ隣に掲示し、レオ・レオニの絵本をあいうえお順に整理している。彼のこだわりを取り上げることでレオ・レオニ作品を選んだ17 (男) が発言するだろう。

21 (女) 絵本の本文に魚はほぼ登場していない。彼女が目したのは絵の中のビー玉である。そこには海の様子が小さく描かれている。着眼点の良さを取り上げることで、他の着眼点で選んだ子どもに話が広がるはずである。